

活動場所

北海道 札幌市、安平町、
厚真町他全国31団地



活動目的

三菱マテリアル(株)の社有林(「マテリアルの森」)では、適切な森林管理を通じて、CO2の吸収・固定推進、生物多様性の保全、地域の憩いの場の提供、再生可能資源としての木材供給など、森林が本来持つ公益的機能の最大化を図り、地域に愛され、社会に必要とされ、環境保全に貢献できるような、美しい森林を目指しています。

活動内容

日本国内に約1.4万ヘクタールの社有林を保有し、国際的な森林認証制度であるPEFCと相互認証された日本の森林認証制度SGECを北海道にある主要な9つの山林で取得しています。

SGEC取得山林では絶滅が危惧される動植物のリスト「レッドデータブック」を作成し、山林管理に従事する社員及び山林整備を実施する協力会社に配布、教育を行い、作業時には適切な対処を行っています。具体的には、樹木の伐採等の森林整備が生物へ与える影響を最小限にするため、整備前後のモニタリング調査を徹底しています。整備前に準絶滅危惧種以上の生物が確認された場合には、それらの生物の繁殖時期には作業を行わないなどの対策をとっています。また、整備後に生物に影響を与える大きな変化が起きていないかを確認しています。

日々の森林管理においても、日常的にモニタリング活動を実施しているほか、山林内に定点調査地や定点カメラを複数設置し、森林や生物の状況を把握しています。

その他に、動植物の生息場所を確保するために河畔林や尾根林の保全を進めることや、森林が持っている天然の力を最大限に活用するために伐採率を抑えた間伐、人工林を皆伐をせずに天然生林に移行する区域の設定など多様な森林・土壌・水環境形態を保全することで、様々な生物に配慮した森林整備にもチャレンジしています。



PRしたいポイント

- ◎生物多様性や土壌、水環境の保全に配慮した森林整備の実施
- ◎日常的なモニタリング体制の構築

活動効果、今後の展開 等

- レッドデータブック、日常モニタリングにより社員の生物多様性保全への意識向上
- 今後はモニタリング活動にデジタルツールの利用を推進し、より効率的なデータ取得と可視化、得られた結果を山林管理計画へ反映していくことを考えています